

## 東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2020年5月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

### 1. 概況

- 新型コロナ感染状況は全体として落ち着きつつあるが、国内経済への影響は深刻で、各国は支援措置を実施し、国際金融機関等からの支援を受入れている。
- 6月5日のセントキッツ総選挙が発表されたが、野党側は国境封鎖や非常事態宣言の継続を批判。
- 台湾承認国3カ国は、蔡英文総統2期目就任に祝辞を發出し、台湾のWHO等の国際機関への参加支持を明言。

### 2. 内政

#### （1）新型コロナウイルス

##### （ア）アンティグア

- 11日、観光大臣は、6月4日に空港を再開すると発言。28日、政府は、6月1日から国際線受入れ再開を発表。
- 13日、政府は、夜間外出禁止を4時間緩和すると発表。15日、緊急事態の7月31日までの延長が議会で可決。28日、レストランの店内飲食、バー等の営業許可を発表。

##### （イ）ドミニカ

- 5日、3月末から滞在中のキューバ人医師1人の死亡が発表されたが、死因は未公表。
- 6日、政府は営業可能店舗の拡大、土曜午前中の営業許可、ビーチ、河川の開放等の制限緩和を発表。12日から夜間外出禁止時間が短縮。25日から店舗営業時間拡大等の緩和策実施。

##### （ウ）グレナダ

- 1日、キューバから新たに2人の医師が到着し、医療支援チームは合計37人となる。
- 3日、夜間外出禁止を12日まで延長。11日、19日までの夜間外出禁止、営業可能業種の拡大、フェリー運航一部再開許可等の緩和措置を発表。18日、夜間外出禁止等の26日まで再延長。25日、全店舗の午後5時までの営業許可を発表。29日、ミッチェル首相は、6月30日空港再開を検討中と発言。
- 6日、政府は在中国グレナダ大使館が中国で調達したマスク1万5千枚、防護

服100着等が到着したと発表。

(エ) セントルシア

- 3日、ケイマン諸島から検査キット5千個が寄贈。
- 12日、インドは、セントルシアに対しインドUNDP基金より医療品及び百万米ドルの資金援助を実施。
- 16日、政府は5段階の経済活動再開を発表し、第2段階までは実施済、18日から多くの部門の完全再開を認める第3段階を実施と発表。16日、ジャスネ首相は、6月4日より国境を徐々に開放すると発表。
- 20日、台湾は追加でマスク6万枚を寄贈。
- 26日、ジャスネ首相は、緊急事態宣言の9月30日までの延長を議会に提出。

(オ) セントキッツ

- 8日、政府は非常事態宣言に基づく規制を23日まで延長、直近の週末の終日外出禁止、平日の夜間外出禁止、終日の店舗営業の一部緩和を発表。
- 15日、台湾から追加でマスク6万枚が寄贈。

(カ) セントビンセント

- 11日、教育省は18日から学校再開を提案。
- 15日、台湾はPCR検査装置2台(各3万米ドル)、マスク、防護服、赤外線温度計等を寄贈。これにより自国内でのPCR検査が可能となる。22日、台湾寄贈の熱画像装置が空港に設置された。
- 19日、政府は、EUが渡航制限を延長したのに伴い、当国籍保持者以外のEU渡航制限を6月15日まで延長。

(2) その他の内政

- 3日付セントルシア紙は、ジャスネ首相は約17億ドルの20年度予算を発表し、歳入はコロナ禍の影響で前年度実績から11.8%減少見込みと厳しい状況と説明したと報道。
- 4日付セントルシア紙は、フェリックス商務大臣は、大麻産業の経済効果に関する大麻委員会報告書を近々提出予定と報道。
- 12日、ハリス・セントキッツ首相は議会を解散し、18日、同首相は、投票日は6月5日、立候補受付は5月27日と発表。
- 15日、アンティグア政府は、1月に解任されたジョナス前農業・漁業大臣が、社会変遷・ブルーエコノミー大臣として復帰すると発表。
- 20日付セントキッツ紙は、ダグラス野党党首は海外有権者が帰国、投票できないことを批判したと報道。23日付同紙は、ハリス首相は、新型コロナ対策のため国境封鎖は継続すると述べたと報道。
- 21日付セントキッツ紙は、コンドール国連大使は、ハリス政権を批判して辞任し、野党に協力すると述べたと報道。

- 27日付セントキッツ紙は、今年の犯罪件数は19年比で33%減少し、この2年減少を続けていると報道。
- 27日付グレナダ紙は、クレメント野党党首が誕生したことに伴い、2人の野党上院議員が任命されたと報道。
- 28日付セントキッツ紙は、ダグラス野党党首は、コロナ禍関連の緊急事態宣言は憲法違反と提訴したと報道。
- 30日付セントキッツ紙は、ハリス首相はOASに発出していた監視団招待をコロナ禍対策を理由に取り消したと報道。

### 3. 経済

- 3日付セントキッツ紙は、アントワン東カリブ中央銀行総裁は、今年はコロナ禍の影響で、東カリブ通貨同盟各国の経済は10～20%収縮すると述べたと報道。
- 4日付ドミニカ紙は、日本の無償資金協力によるロゾー水産施設の改修工事の第1段階として、瓦礫の撤去等が先週開始されたと報道。
- 6日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、1億ドルを投じる東西道路建設計画が署名され、雇用の増加に貢献すると述べたと報道。
- 7日付グレナダ紙は、ミッチェル首相は今年中に支払い期限が来る債務返済額6千万ドルにつき関係機関に支払い猶予を求めていると述べたと報道。
- 7日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、コロナ禍下でも農業輸出は続いており、輸出増を目指すと述べ、漁業省は水産物の近隣国への輸出が増加中と報告したと報道。
- 10日付地域紙は、ブラウン・アンティグア首相（OECS議長）は、米連邦航空局（FAA）が東カリブの航空体制の安全性評価を引き下げたことは、大変残念と述べたと報道。15日付アンティグア紙は、OECSは緊急首脳会合を開催し、評価再引き上げのための措置を協議したと報道。
- 11日付ドミニカ紙は、国連東カリブ地域事務所は、コロナ禍の影響への多面的対応のため、2,970万米ドルの拠出アピールを発出したと報道。
- 13日、セントキッツ政府は、米国は、OECS6カ国及びバルバドスに対し、総額10万4千米ドル相当の医療用防護服等を寄贈したと発表。
- 14日、LIAT航空は運休を5月31日まで延長すると発表。29日には6月30日までの運休延長を発表。
- 15日付セントルシア紙は、ジョセフ農業大臣は、降雨量不足による水資源不足に鑑み、水供給緊急事態宣言を発出したと報道。
- 18日、カリブ開発銀行（CDB）は、コロナ禍対策支援として、アンティグア1,300万米ドル、ドミニカ250万米ドル、グレナダ590万米ドル、セ

ントルシア1,080万米ドル、セントビンセント1,130万米ドルの緊急借款を提供すると発表。

- 19日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、コロナ禍の影響への経済及び家庭への支援策として、特別融資、返済猶予失業補償等を発表したと報道。
- 20日付グレナダ紙は、IMFは20年のグレナダ経済成長率は▲9%以上の予測を発表したと報道。
- 20日付セントビンセント紙は、IMFは、コロナ禍に関する緊急支援として1,600万米ドルを承認したと報道。
- 22日付ドミニカ紙は、政府は、コロナ禍関連の中小企業支援のため農業開発銀行から5百万ドルの借入契約に署名したと報道。
- 28日、OECSは、世銀はカリブ地域の航空連結性強化プロジェクトとして、ドミニカに1,300万米ドル、グレナダ1,700万米ドル、セントルシア4,500万米ドル、総額1億5,900万米ドルを支援し、緊急時や災害後の航空体制を強化する支援を承認したと発表。

#### 4. 外交

- 6日付グレナダ紙は、現地中国大使が新型コロナに関して中国の協力を強調する投稿を掲載。
- 12日、セントルシア政府は、台湾がいくつかの国際規制機関に参加出来ない状態を懸念し、国際民間航空機関(ICAO)への参加を求めるとの声明を発表。
- 14日、セントルシア政府は、コソボとの間で、外交、公用旅券保持者の査証免除取決めを結んだと発表。
- 18日、OECSは、OECS首脳会合の際にラヤ・スペイン外務大臣との間でコロナ禍対策等を協議したが、その際にOECSとスペインの対話枠組み創設に合意したと発表。
- 19日付セントビンセント紙は、世界保健総会で同国と他の台湾承認国は、台湾の参加を支持したと報道。
- 20日、OECSは、国連中南米カリブ経済委員会との間で、持続可能な開発目標を推進するエスカス協定に関して、東カリブ地域での行動計画覚書に署名したと発表。
- 20日、蔡英文台湾総統の2期目就任に際し、セントルシア、セントキッツ及びセントビンセントは祝辞を發出。
- 22日、OECSは、カリコムIMPACS(治安及び安全保障実施機関)は英国の支援を得て、セントビンセントの刑務所内での新型コロナ予防のための衛生用品の寄贈を行ったと報道。
- 29日、OECSは、27日セントルシアが、アフリカ・カリブ・太平洋機関

(ACP) 設立のためのジョージタウン改定協定を批准し、OECSで3カ国目と発表。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。